

## 生命医科学研究科 医生命システム専攻博士課程（前期課程）

### アドミッション・ポリシー

医生命システム専攻博士課程（前期課程）では、医療、福祉、健康、食品、化粧品など医学・薬学に関連する幅広いフィールドで、生物・物理・化学の複眼的視点から創意工夫をもって課題解決へと導くことのできる技術者、研究者、指導者を養成することを目的としています。こうした観点から、次のような学生を求めています。

#### 医生命システム専攻博士課程（前期課程）の求める学生像

1. 生命医科学に関連する専門知識を得るために必要な、細胞生物学・自然科学に関する基礎学力を有する学生を求めています。
2. 日本語および英語の基本的な読解能力と表現能力を有し、論理的思考能力と、データ解析能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、科学論文執筆能力を身につけたいと希望する学生を求めています。
3. 生命医科学に関する様々な問題について幅広い関心と向上心を持ち、自ら課題を発見し、解決する能力を習得したいと希望する学生を求めています。また、医生命倫理、研究者・技術者倫理を習得しようとする学生を求めています。さらに、生命医科学に関する領域で、次世代を先導する技術者、国際的に高く評価される研究者を目指す学生を求めています。

#### 医生命システム専攻博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 先端科学技術を習得し、情報発信および専門的ディスカッションをおこなうのに必要な英文読解、英作文、英会話の能力を習得することが望まれます。
2. 生命医科学の基本となる細胞生物学は、生命の営みにおける一つひとつの現象を理論的に展開する生命医科学の基本となります。内容は形態学、生理学、薬理学、生化学、細胞生物学、分子生物学、遺伝子科学と多岐にわたるため、幅広い知識を持ち、総合的に理解する能力の習得が望まれます。
3. 生命医科学の知識は、単に習得するだけでなく、健康増進や疾病の予防と治療など実際に人のために役立たせることに意義があります。個々の研究を深く追求することは重要ですが、単に研究のためだけの研究になっていないか、常に自分たちの置かれている状況を理解する必要があります。公衆衛生学及び臨床医学についての基本事項を学び、臨床の現場に役に立つ研究、公衆衛生の向上に寄与できる研究能力の習得が望まれます。
4. 実験データや臨床研究の解析には、統計数学が必要不可欠となります。大規模データベースを用いた解析、いわゆるビッグデータの時代に対応するためにも、履修す

る数学の内容を十分理解し、総合的な数学の素養を習得することが望まれます。統計数学の基本知識の習得が望まれます。

#### 入学者選抜制度

これらの志向性や能力を確認するために、また将来の研究に関する設計、および生命医科学に関する高度な専門知識やスキルを修得するために必要な学習能力や態度を有しているかどうかを、研究概要、筆記試験、面接（口頭試問）等を通じて判定しています。

## 生命医科学研究科 医生命システム専攻博士課程（後期課程）

### アドミッション・ポリシー

医生命システム専攻博士課程（後期課程）は、医療、福祉、健康、食品、化粧品などに関連する生命医科学専門領域で、医学・薬学の複眼的視点から研究課題を立案し、独創的手法によって課題解決へと導くことのできる技術者、研究者、指導者を養成することを目的としています。このような観点から、医生命システム専攻博士課程（後期課程）では、次のような学生を求めています。

#### 医生命システム専攻博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 生命医科学に関連する専門知識を得るために必要な、細胞生物学・自然科学に関する専門技術および知識を有する学生を求めています。
2. 英語の基本的な読解能力と表現能力を有し、論理的思考能力と、データ解析能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、科学論文執筆能力をさらに深化させることを望む学生を求めています。
3. 生命医科学に関する様々な問題について幅広い関心と向上心を持ち、自ら課題を発見し、解決する研究計画を立案し、解決することを希望する学生を求めています。また、生命倫理、研究者・技術者倫理を深化して極めようとする学生を求めています。さらに、国際社会において生命医科学の先端領域で独立して研究が遂行できる技術者、研究者、指導者となることを望む学生を求めています。

#### 医生命システム専攻博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 高度な英文読解、英作文、英会話力を習得し、それぞれの先端科学領域において研究成果のプレゼンテーションおよび議論、学術論文の執筆能力を習得することが望まれます。博士課程（前期課程）のうちにできる限りこれらの能力を高めることが望まれます。
2. 細胞生物学については、専門領域に関する奥深い知識を習得するのみならず、基本的な技術を駆使できるよう十分な修練を積んでおくことが望まれます。
3. 生命医科学の内容は形態学、生理学、薬理学、生化学、細胞生物学、分子生物学、遺伝子科学と多岐にわたりますが、各自の専門領域の他に、少なくとも2分野に関する知識および総合的な理解能力の習得が望まれます。
4. 実験データや臨床研究の解析には、統計数学が必要不可欠となります。大規模データベースを用いた解析、いわゆるビッグデータの時代に対応するためにも、博士課程（前期課程）のうちに統計数学を十分理解し、基本的統計ソフトウェアの使用法の習得が望まれます。

## 入学者選抜制度

これらの人材養成の目的に適うかどうか、以下について研究概要、筆記試験、面接（口頭試問）等を通じて確認します。

1. 修士論文または修士論文に相当する論文の内容
2. 研究計画書による将来の研究の方向性
3. 研究者として必要な学力を有しているかどうか